

話題の講義ライブ LIVE 2013

Today's Program 都市住宅政策論

HOSEI UNIVERSITY 法政大学

HOSEI

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科

5.17.Fri. at Tama

13:30~15:00

水野 雅男 教授



「8軒に1軒が空き家」 それでも家が持てない日本の住宅政策の矛盾

講義の流れ

醍醐味

住宅政策を切り口に、住まいの問題にアプローチする。京都市や金沢など日本の諸都市における木造住宅保全活用の活動なども紹介。日本の住宅問題の深刻さを知ると同時に、政策を批判する目も養う。

生存権すら脅かされる

日本の住宅政策の現状

持ち家を買うのか賃貸にするか。買うとしたら戸建かマンションか。住まない問題は避けては通れない人生の一大イベントだ。この講義では、住宅政策の歴史の変遷、諸外国との比較などを紹介しながら、住宅政策の現状や住まいのあり方について学んでいく。今日のテーマは「住宅セーフティネット」。景気の悪化で失業した人、収入の激減した人々が家を失い、賃貸住宅さえも借りられない現状を紹介し、なぜそのような状況が生まれたのかについて住宅政策の観点から考える。



講義の冒頭、教室の大スクリーンに「生存権」を規定した憲法第25条の条文が映し出された。

閉ざされている実態を、学生たちは驚きの目で見つめている。

住宅困窮者を救済するセーフティネットが必要

実は日本には数百万世帯もの空き家がある。実は、8軒に1軒が空き家という割合だ。その一方、最低限の住まいすら保証されない人がいる。「住宅市場は明らかに供給過剰であり、国の政策が行き届いていない証拠」と水野先生はその原因を説明する。



1970年代の高度経済成長期から今日まで、政府は国民のマイホーム購入を支援する「持ち家政策」を推進してきた。その一方、厳しい財政事情により低所得者層を対象とした公営住宅は減少し続け、都市部では住宅不足が慢性化し、特に90年代のバブル崩壊以降は景気悪化により家を失う人が増えた。政府は住宅困窮者を救うた

国の住宅政策は本当に正しいのか？ 批判的に見つめる目を養う

水野先生が政策の矛盾を厳しく指摘する背景には、学生たちに社会を批判的に見る目を養ってほしいという切実な思いがある。「どのような政策でも、完璧なものはありません。国の政策に厳しい目を向けることは、生きていくうえで必要であると同時に、制度の不備からビジネスチャンスを生むことでもあります」

こうした住宅政策の現状を、今後どのように解消していけばよいのだろうか。バブル崩壊まで、いわゆる「中流」の人々の生活は、賃貸から持ち家へ徐々にハシゴを登っていくライフコースが想定されていた。その前提には、生涯一つの会社に勤める終身雇用と、年ごとに地位と収入がアップする年功序列があったからだ。



VOICES 学生の声 of University Students



鈴木 綾香さん(左) 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科3年 今日には住宅困窮者の話でしたが、空き家はこれからどんどん増えるので、そうした余剰住宅を格安でハウジングブアの方に提供できる仕組みがあればいいと感じました。

小島 美保子さん(中) 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科3年 震災で家を失った人々への支援や地域の活性化を考える上でも、空き家問題やハウジングブアなど、授業で学んだことを生かしていきたいと思っています。

三浦 翔平さん(右) 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科3年 低所得者のための政策についてはこれまで考えたことがありませんでしたが、矛盾の影で苦しんでいる人がたくさんいることを知り、講義を通して社会を見る目も変わってきたと思います。

法政大学

資料の請求およびお問い合わせ先 URL http://www.hosei.ac.jp 〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1 法政大学 入学センター TEL 03-3264-9300



みずの まさお 水野 雅男先生 1959年生まれ。東京工業大学大学院修士課程理工学研究科社会工学専攻修了。...

Table with 2 columns: Department Name and History/Establishment Date. Includes departments like Law, Literature, Economics, etc.

[沿革・歴史] 法政大学の前身・東京法政社設立 大学令により初めて私立大学の設置が認可され、財団法人法政大学となる...

[オープンキャンパス情報] 多摩キャンパス (経済・社会・現代福祉・スポーツ健康学部) 8月3日(土) 8月24日(土) 時間はいずれも 11:00~15:30

